

## 環境共生学セミナー II

### 環境共生学セミナー II

2単位 (必修) 3年 (後期)

小山保夫・教授 / 社会創生学科

**【授業目的】** どのような卒業研究を進めるか。それを知るためには、どのような研究が行われているか、知ることが必須である。もし、すでに研究が行われていることを研究しても、それが論文として認められることは少ない。よって、卒業研究に取りかかる最初のステップとして、最近の論文を書いてみましょう。また、英語の力を付けて、レベルの高い大学院の入学試験に確実に合格できるようにします。

**【授業概要】** 化学物質の作用評価論文の作成力を養成します。

**【キーワード】** [キーワード]

**【先行科目】** 『環境共生学セミナー I』 (1.0)

**【関連科目】** [関連科目]

**【履修上の注意】** 英語は苦勞しないと上手にならないから、気持ちが悪くなるくらい書くことです。とにかく、「修行」と思って頑張ることです。三時間くらいは連続して、英語を書き続ける忍耐力が必要です。

**【到達目標】** 英語の論文を書いてみる。

**【授業計画】**

1. 研究室から出した論文を読み、どのような実験データが必要かを考えます。
2. これまでに得られた実験データに沿って、方法 (Methods and Materials) を書いてみよう。
3. これまでに得られた実験データに沿って、結果 (Results) を書いてみよう。(1回目)
4. これまでに得られた実験データに沿って、結果 (Results) を書いてみよう。(2回目)
5. 結果から何が考察 (Discussion) できるかを考えよう。(1回目)
6. 結果から何が考察 (Discussion) できるかを考えよう。(2回目)
7. 結果に沿って、考察 (Discussion) を書いてみよう。(1回目)
8. 結果に沿って、考察 (Discussion) を書いてみよう。(2回目)
9. 引用文献 (References) を読みながら、研究の意義 (Implications) を考えてみよう。(1回目)
10. 引用文献 (References) を読みながら、研究の意義 (Implications) を考えてみよう。(2回目)
11. 引用文献 (References) を読みながら、研究の意義 (Implications) を考えてみよう。(3回目)
12. 研究の意義 (Implications) を考察 (Discussion) に書き加えよう。(1回目)

13. 研究の意義 (Implications) を考察 (Discussion) に書き加えよう。(2回目)

14. 本来、緒言 (Introduction) は最初を書く。しかし、ここでは論文全体を見通して、最後に緒言を考えてみよう。

15. 論文内容に沿って、緒言 (Introduction) を書いてみよう。(1回目)

16. 論文内容に沿って、緒言 (Introduction) を書いてみよう。(2回目)

**【成績評価】** 最低でも方法と結果は英語で書けることが必要。

**【再試験】** なし。

**【教科書】** [教科書]

**【参考書】** [参考資料]

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220303>

**【連絡先】**

⇒ 小山 (総合科学部 3号館 3N06, [oyama@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:oyama@ias.tokushima-u.ac.jp)) **MAIL** (オフィスアワー: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します。時間は有効に使用します。)

**Target)** どのような卒業研究を進めるか、それを知るためには、どのような研究が行われているか、知ることが必須である。もし、すでに研究が行われていることを研究しても、それが論文として認められることは少ない。よって、卒業研究に取りかかる最初のステップとして、最近の論文を書いてみましょう。また、英語の力を付けて、レベルの高い大学院の入学試験に確実に合格できるようにします。

**Outline)** 化学物質の作用評価論文の作成力を養成します。

**Keyword)** [キーワード]

**Fundamental Lecture)** “環境共生学セミナー I”(1.0)

**Relational Lecture)** [関連科目]

**Notice)** 英語は苦勞しないと上手にならないから、気持ちが悪くなるくらい書くことです。とにかく、「修行」と思って頑張ることです。三時間くらいは連続して、英語を書き続ける忍耐力が必要です。

**Goal)** 英語の論文を書いてみる。

**Schedule)**

1. 研究室から出した論文を読み、どのような実験データが必要かを考えます。
2. これまでに得られた実験データに沿って、方法 (Methods and Materials) を書いてみよう。
3. これまでに得られた実験データに沿って、結果 (Results) を書いてみよう。(1回目)
4. これまでに得られた実験データに沿って、結果 (Results) を書いてみよう。(2回目)
5. 結果から何が考察 (Discussion) できるかを考えよう。(1回目)
6. 結果から何が考察 (Discussion) できるかを考えよう。(2回目)
7. 結果に沿って、考察 (Discussion) を書いてみよう。(1回目)
8. 結果に沿って、考察 (Discussion) を書いてみよう。(2回目)
9. 引用文献 (References) を読みながら、研究の意義 (Implications) を考えてみよう。(1回目)
10. 引用文献 (References) を読みながら、研究の意義 (Implications) を考えてみよう。(2回目)
11. 引用文献 (References) を読みながら、研究の意義 (Implications) を考えてみよう。(3回目)

12. 研究の意義 (Implications) を考察 (Discussion) に書き加えよう。(1回目)
13. 研究の意義 (Implications) を考察 (Discussion) に書き加えよう。(2回目)
14. 本来、緒言 (Introduction) は最初を書く。しかし、ここでは論文全体を見通して、最後に緒言を考えてみよう。
15. 論文内容に沿って、緒言 (Introduction) を書いてみよう。(1回目)
16. 論文内容に沿って、緒言 (Introduction) を書いてみよう。(2回目)

**Evaluation Criteria)** 最低でも方法と結果は英語で書けることが必要。

**Re-evaluation)** なし。

**Textbook)** [教科書]

**Reference)** [参考資料]

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=220303>

**Contact)**

⇒ Oyama (総合科学部 3号館 3N06, [oyama@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:oyama@ias.tokushima-u.ac.jp)) [MAIL](#)  
(Office Hour: メールで相談内容及び日時を打ち合わせて決定します。時間は有効に使います。)